

2026 年 9 月 4 日

<報道発表資料>

NTT モビリティ株式会社
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

NTT モビリティとあいおいニッセイ同和損保、 自動運転の安全性評価の高度化に向けた共同実証を開始

～東京都武蔵野市をフィールドとし、安全・安心な自動運転サービスの社会実装を加速～

[NTT モビリティ株式会社](#)（以下、「NTT モビリティ」）と MS&AD インシュアランス グループの[あいおいニッセイ同和損害保険株式会社](#)（以下、「あいおいニッセイ同和損保」）は東京都武蔵野市の NTT モビリティ 自動運転実証フィールドにおいて、2026 年 9 月より、安全・安心な自動運転サービスの社会実装に向けた共同実証（以下、「本実証」）を開始します。

本実証では、NTT モビリティの運行する自動運転車両の走行データに加え、あいおいニッセイ同和損保のテレマティクス自動車保険の提供を通じて培ったノウハウを活用して分析することで、自動運転固有の走行特性の把握や交通環境の潜在リスクの評価を行い、自動運転の安全性評価の高度化を目指します。

両社は本実証を通じて、自動運転サービスの安全性・社会受容性の向上を図り、地域交通課題の解決に向けた社会実装を加速します。

1. 背景

深刻化する運転手不足、高齢化の進展を背景に、地域交通を取り巻く社会課題の解決手段として自動運転サービスへの期待が高まっています。こうした中、日本政府は、2027 年度に 100 か所以上での「レベル 4」自動運転サービスの実装、2030 年度には自動運転車両 1 万台の普及という目標を掲げています。

一方で、本格的な社会実装に向けては、安全・安心なサービスであることが大前提であり、自動運転システムの技術向上や運行管理の高度化が不可欠です。近年、国際的にも自動運転システムの安全性を評価するための基準整備が進められており、自動運転車両が有能で注意深い人間のドライバーと同等以上の安全性を有することを示すための客観的なデータの蓄積や分析評価手法の確立が求められています。

こうした課題認識のもと、両社は、NTT モビリティが有する自動運転運行に関する知見と、あいおいニッセイ同和損保が有するテレマティクスデータ※とその分析ノウハウを掛け合わせることで、自動運転サービスの安全性・社会受容性向上に向けた本実証を実施します。

※ テレマティクスとは、「テレコミュニケーション（通信）」と「インフォマティクス（情報工学）」を組み合わせた造語で、GPS や通信システム等を利用して、さまざまな情報やサービスを提供する仕組み。あいおいニッセイ同和損保は、お客さまの安全運転をスコア化するテレマティクス自動車保険の提供を通じて、交通事故につながるドライバーの運転挙動に関する知見を有するほか、地域のヒヤリハットエリア、走行量といったデータを蓄積しており、このデータを「テレマティクスデータ」という。

2. 本実証の概要

NTT モビリティが、東京都武蔵野市で 2026 年 9 月より実施する「レベル 2」自動運転実証において、あいおいニッセイ同和損保のテレマティクスデバイスを搭載し、自動運転車両の走行データの収集・分析を行います。自動運転車両の走行データとあいおいニッセイ同和損保が保有するテレマティクスデータを比較することで、自動運転システムのみでは把握・評価が難しかった、自動運転固有の走行特性や交通環境の潜在的なリスク等を可視化し、自動運転の安全性評価の高度化を目指します。

また、分析結果に基づき、NTT モビリティの通年走行可能な実証フィールドにおいて、自動運転システムおよび運行管理の改善を継続的に実施・検証することで、自動運転のさらなる安全性向上を目指します。

<本実証概要>

実証エリア	東京都武蔵野市（武蔵野市役所～吉祥寺駅周辺）
実証期間	2026 年 9 月 ～ 2027 年 3 月
使用車両	トヨタ自動車株式会社「e-Palette（イーパレット）」をベースとして改造した車両

<本実証イメージ>



3. 両社の役割

NTT モビリティ	- 本実証の企画、全体運営・統括 - 本実証で使用する車両の提供、運行・管理 - データ分析結果に基づいた自動運転システムおよび運行管理の改善検討
あいおいニッセイ同和損保	- 本実証で使用する車両へのテレマティクスデバイスの搭載を通じた走行データ収集 - 収集データとテレマティクスデータの比較による、安全性検証と改善点抽出 - 自動運転固有の走行特性や潜在的リスクの分析および発生防止に向けた対策検討

4. 今後の展開

NTT モビリティは、本実証で得た知見を他の地域にも展開することで、安全・安心な自動運転サービスの社会実装を加速し、地域交通課題の解決に貢献します。

あいおいニッセイ同和損保は、本実証で得た分析ノウハウをもとに、全国における自動運転サービスの導入支援等を通じて地域課題を解消し、より良い町づくりに貢献していきます。

【NTT モビリティについて】

NTT グループはこれまで、地域の交通課題解決に向けて、全国に広がる NTT グループの運用体制を活かし 60 件以上の自動運転関連実証に参画してきました。また May Mobility 社や Navya 社への出資等を通じた自動運転車両の提供や、IOWN 構想をはじめとする通信技術の高度化等により、自動運転の安全性・信頼性向上・普及促進に取り組んできました。

2025 年 12 月に設立した NTT モビリティは、NTT グループ全体の全国カバレッジ・技術・知見を収斂し、自動運転の車両調達、導入から運用までを一体的に支援することで、自動運転の社会実装を目指しています。2026 年 6 月に NTT 武蔵野研究開発センタに開設した共創拠点「Co-Creation Hub」では、自動運転技術や運行に関する実証を通年で実施し、さまざまなパートナーとともに自動運転の社会実装に向けた検討・検証を推進しています。

【あいおいニッセイ同和損保について】

あいおいニッセイ同和損保は、テレマティクス自動車保険のパイオニアとして、2026 年 7 月末時点で約 222 万台のテレマティクス自動車保険の契約台数を保有しています。お客さまの安全運転度合いに応じて、安全運転スコアやアドバイス、保険料の割引等を提供することで、安全運転を促進しています。

また、テレマティクス自動車保険で取得する走行データを活用し、地域の自治体や警察、民間企業等のパートナーとともに、地域社会の課題解決に向けた「SAFE TOWN DRIVE」取り組みを通じて、誰もが安全・安心に暮らせる町づくりを目指しています。今後も、安全・安心なモビリティ社会の実現に資する「モビリティ No.1 損保」を目指して、新たな価値を創造、提供していきます。